

① 神奈川県茅ヶ崎市/ 2020年度よりLAPSS利用開始

■ LAPSS利用による効果



導入前の課題

事務局から約70の施設管理部局に活動量を入力する「Excelシート」を配布した後、回収・集計作業を行っていたが、**エラーチェック及び集計作業だけで約1週間を要していた**（他に部局への入力督促作業も実施）。



導入による効果

システム上で最低限のエラーチェックを実施した上で各部局の活動量データを把握・集計することが可能となったため、**従来のデータ集計・エラーチェックに係る業務時間を大幅に削減することができた。**

■ LAPSSの活用方法

- 全ての施設管理部局にてLAPSSの利用を開始し、管理施設ごとに毎月の活動量をLAPSSに入力。各部局への展開に向けては、事務局にて入力マニュアル（簡易版）を作成して配布（LAPSSへのログイン、活動量入力）。
- 「温室効果ガス排出量算定・集計機能」を活用し、**担当部局別・施設別の排出量を随時確認。**
- 温対法や省エネ法報告向けに排出量を算定することができるため、LAPSSでの集計値を報告に活用し、**関連制度報告関連業務を効率化。**

② 伊達地方消防組合/ 2020年度よりLAPSS利用開始

■ LAPSS利用による効果



導入前の課題

「かんたん算定シート」を利用していたが、排出係数の更新を手動で行う必要があり、手間であった。脱炭素の取組検討に向け、他団体における実施措置に係る参考情報を得ることができない。



導入による効果

LAPSS上では報告制度に応じて自動で係数が割り振られるため、報告に係る業務時間・手間を削減。他団体の排出状況や有益な措置を参照することで、目標設定や措置検討の参考とすることが可能。

■ LAPSSの活用方法

- 施設主導で、施設別の措置をLAPSS上で管理。あわせて削減目標も設定。
- 年1回組合で実施される委員会にて、LAPSSに入力された情報と温室効果ガスの削減結果をもとに施設管理部局とともに措置と効果の振り返りを行い、次年度の目標設定を実施。
- LAPSSから出力されるガス別排出量データ等を外部公表資料に活用。



LAPSS活用団体の声

■ LAPSS利用による効果

【コスト削減】

- ・ 民間事業者の開発システムを使用していたが、有償となったためLAPSSの活用を開始。**経費削減**にもつながった。

【業務時間削減】

- ・ 従来は100以上の部局を対象にExcelファイルを配布した後、回収後事務局で手作業で集計作業を行っていた。督促と入力内容チェックを合わせて**延べ20日程度**を要していたが、LAPSSの活用により**当該業務の負担が大幅に軽減**された。
- ・ LAPSSの入力値を活用して温対法、省エネ法報告向け排出量の算定が可能であるため、**関連制度報告業務が効率化**された。

■ LAPSSの活用状況

実行計画の 策定 【PLAN】

- 実行計画の策定には至っていないが、LAPSSに計画策定フォーマット（雛型）が用意されているので活用した上で計画策定を進めていきたい
- LAPSSでは施設単位での措置の登録が可能のため、事務局として施設全体の措置実施内容、点検結果を管理している

実行計画の 推進 【Do】

- 全ての施設管理部局にてLAPSSの利用を開始し、管理施設ごとに毎月の活動量をLAPSSに入力。また事務局では担当部局別の排出状況を随時確認している
- 温対法や省エネ法報告向け排出量の算定も可能なので、LAPSSでの集計値を関連制度報告にも活用

実行計画の 点検・見直し 【Check/Action】

- 他団体比較機能を活用して自団体の排出状況を把握し、次年度以降の削減目標等を検討している

● 福島県郡山市/ 2021年度よりLAPSS利用開始

■ LAPSS利用による効果



導入前の課題

市独自のExcelシートを利用して、活動量を管理。各施設管理部局から回収したExcelの統合作業に40人日を要していた。



導入による効果

活動量データ登録機能により、各部局の入力したデータの統合作業を省力化することができた結果、業務量を20人日まで削減。施設管理部局からも利便性が向上したとの声が上がっている。

■ LAPSSの活用方法

- 「活動量データ登録機能」を活用し、公用車の実績以外の活動項目についてはLAPSS上で一元管理。
- 過年度データとの経年比較の観点から、LAPSSに登録された活動量データを、市独自のExcelツールにインポートすることで温室効果ガス排出量を算定・集計。
- LAPSSの展開にあたり、環境省作成のマニュアルから基本的な箇所を抽出したマニュアルを作成・配付。

■ 今後のLAPSSへの期待

- 活動量の一括登録時にもエラー表示が出れば、異常値の確認作業が楽になる。
- 活動量の一括登録機能を施設管理部局権限でも使用できるようにしてほしい。
- エネルギー使用量についても経年比較ができるとよい。
- 施設登録時の施設選択画面で、必要な施設だけを表示できるようにしてほしい。

● 長野県長野市/ 2020～2021年度よりLAPSS利用開始

■ LAPSS利用による効果



導入前の課題

市独自のExcelシートを利用して、温室効果ガス排出量を管理していたが、度重なる更新等によりExcelシートが煩雑化していた。



導入による効果

事務局としては、活動量データ登録機能により、各施設管理部局が入力したデータの転記作業に要する業務量を削減できた。

■ LAPSSの活用方法

- 実行計画の管理は全てLAPSS上で実施。
- 活動量データをLAPSSに入力。温室効果ガス排出量については、部局別の集計値や過年度比等を把握するため、LAPSSに登録された活動量を既存のExcelツールに転記して別途集計。
- 施設管理部局向けに、マニュアルを作成したほか、入力依頼時には簡易なスライドを用いて説明を実施。
- 改正省エネ法で非化石エネルギーの報告が必要になったが、既にLAPSS上では独自の活動項目として管理。

■ 今後のLAPSSへの期待

- 入力する施設管理部局の負担を軽減するために、LAPSS外で管理している電力使用データ等をそのまま転記する形でLAPSSに一括登録できると有難い。
- 温対法報告書作成支援ツールの更新が止まったため、近いうちにEEGS-LAPSS連携機能を使用したいが、EEGSのマニュアルが難解。

● 京都府舞鶴市/ 2022年度よりLAPSS利用開始

■ LAPSS利用による効果



導入前の課題

市独自のExcelシートを利用して、各部局に活動量の入力を依頼していた。回答の取りまとめ・集計や排出係数の更新、数値チェック、経年比較といった作業を全て1人で手動で行っていた。



導入による効果

温室効果ガス排出量算定・集計機能により、上記作業を自動化でき、大幅に工数を削減。また、排出量が可視化されたことで、施策の検討が円滑になるとともに、各部局のモチベーションも向上。

■ LAPSSの活用方法

- 「温室効果ガス排出量算定・集計機能」を活用して、各施設管理部局が入力した活動量をもとに、事務局にて排出量を管理。このデータを活用して、市の地球温暖化対策推進委員会の資料を作成。
- 今後の施策の検討等のため、「他団体比較機能」も活用。
- 各部局には、「地方公共団体実行計画策定・管理等支援システム ユーザーズガイド」や独自の研修等により、使用方法等を周知。

■ 今後のLAPSSへの期待

- 施設分類別や担当部局別だけでなく、各施設別の排出量もグラフで表示してほしい。
- グラフについては、LAPSS上での閲覧だけでなく、ファイルとして出力できるようになると、利便性がより高まる。
- 区域施策編については、現状では実行計画の情報のみ登録しているが、今後、LAPSSの本格利用を検討したい。

LAPSS利用団体事例紹介

● 大阪府高槻市/ 2021年度よりLAPSS利用開始

■ LAPSS利用による効果



導入前の課題

市独自のExcelシートを利用して、各部局に活動量の入力を依頼していた。回答の統合・集計作業をはじめとする事務作業に90人日を要していた。



導入による効果

活動量データ登録機能により、各部局の入力したデータの統合・集計作業を自動化することができた結果、業務量を60人日まで削減することに成功。

■ LAPSSの活用方法

- 「活動量データ登録機能」「関連制度報告に向けた排出量算定機能」を活用。
- 電気・都市ガス等のエネルギー量、焼却ごみ量や資源ごみの回収量など、LAPSSで管理可能な活動項目については、全てLAPSSで管理して、施設管理部局に活動量を入力してもらっている。
- 各施設管理部局には、年度末に活動量の入力依頼を行うとともに、四半期ごとに周知。

■ 今後のLAPSSへの期待

- 団体独自の活動項目や排出係数の登録機能が令和6年度以降実装予定とのことなので、是非活用したい。
- 活動量の一括確定解除機能を実装してほしい。
- 温対法報告書作成にあたっては、従前から環境省の報告書作成支援ツールを使用してきたが、今後はEEGSの利用、特にEEGS-LAPSS連携機能の活用を検討したい。